



編集・発行

県南教育事務所



「大切にしていること」

県南教育事務所長 笠原 聡美

みなさんは何を大切にしていますか。

私が大切にしてきたことは「人を理解すること、人を理解しようとする事」です。

「人を理解する」の「人」とは、児童・生徒はもちろんのこと、教職員、保護者や地域の方々を指し、場面や立場でその対象は変わります。

あらためて教員人生を振り返ると、よい思い出も後悔していることもすべて「人を理解すること」に関わることばかり……。

私はこれを大切にしてきたのだな、と思うのです。

令和4年12月に改訂された生徒指導提要にも、「生徒指導の基本と言えるのは、教職員の児童生徒理解です。」と書いてあります。実は改訂される前のものにも「教育実践が成果を上げるための大前提の一つは児童生徒理解です。」と書いてあり、「児童生徒理解」は教育にとって不易なものだと実感させられます。

そんなことを言っている私も、4月の着任以来、忙しさに負けて「人を理解する」ことを後回しにする日々を送っていました。そんな私の目を覚ましてくれたのは、

5月から始まった所長訪問時の先生方の姿でした。

先生方が児童・生徒の実態を理解した上で授業を展開し、表情をよく見てつぶやきを拾い、「教える授業」から「子どもが学ぶ授業」へと学びの変革が実現されている教室では、児童・生徒が本時のねらいに向かって生き生きと学習をしているのです。

校長先生が教職員のことを理解しようと教職員の話をよく聞き、仕事ぶりをよく観察し、温かい言葉をかけてくださっている学校では、教職員が健やかに勤務をして力を発揮しているのです。

人を理解している、理解しようとして仕事をされている先生方や校長先生方を見ると、「児童や生徒、教職員は幸せだろうな。」と安心し、可能性を感じます。

「そうだった。やはり、どんなに忙しくても人を理解すること、理解しようとするを後回しにしてはいけない。」

「人を理解すること」は時間もかかりますし、容易なことではありません。しかし、教育の場における課題（不登校、いじめ、不祥事など）が山積している今だからこそ、「人を理解すること」を大切にしていきたいですね。

その叱責はパワハラ？ ～「学校事故防止対策研究協議会」より

去る6月14日、小・中・高等学校の教頭先生や市町村教育委員会の指導主事等を参集し、学校事故防止対策研究協議会を開催しました。

午後の研究協議では、職場におけるパワーハラスメントを題材としたロールプレイングを行い、被害・加害・傍観の立場を体験するとともに、パワハラが起きる原因やパワハラを防ぐための手立て等について協議しました。

【事例1】

管理職が他の職員の前で特定の職員を叱責する場面

【事例2】

学年主任が子どもの前で担任を叱責する場面

仮に、職員に何らかの落ち度があったとしても、他の職員や児童生徒の前で叱責された場合、その職員は周囲からの信頼を失います。叱責する側は「学校や学年のため、子どものためにやむを得ない」と考えるかもしれませんが、その叱責により失われる周囲の信頼は回復が難しく、叱責される側にどんな落ち度があったとしてもパワーハラスメントと認定される可能性があります。

特に、管理職や各主任も含めて、ベテランの域に達している職員は、過去の経験だけに頼らず、自分の持つ価値観を常にアップデートしていきたいものです。

当日の詳細内容は、学校教育課通信189号に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

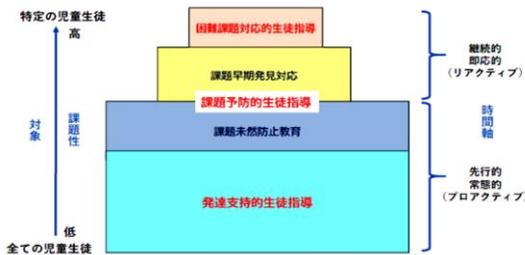
～学校教育課関連記事～

「不登校の未然防止」

「不登校いじめ等対策推進事業域別シンポジウム」を5月に開催し、不登校の未然防止について情報交換を行い、各校で特に力を入れたい取組を考える機会としました。

昨年12月に改訂された「生徒指導提要」では、下図を用いて「生徒指導の構造」の整理がなされ、特に、「発達支持的生徒指導」の重要性が示されています。全ての児童生徒に対して、先行的、常態的に、発達を支え、支持する視点による生徒指導を全職員で進めていきましょう。

県南教育事務所では、「不登校の未然防止」を今年度の重点支援に設定し、その具体的な手立てについて、様々な場面で先生方と共に考えていきます。各学校における児童生徒の「居場所づくり」と「絆づくり」のための支援を組織的・継続的に取り組んでいきましょう。



「健やかな体の育成」

令和4年度児童生徒の肥満に関する調査では、男女ともすべての年齢において、本県の肥満傾向児の出現率が全国を上回る結果となりました。また、多くの年齢において、前年度より出現率が増加しました。これは県南域内においても同じ状況です。このような現状を踏まえ、健康マネジメント能力育成の重点として、「健康の保持増進を図る保健教育」と「体力の向上と運動習慣の定着」を掲げました。その中の肥満傾向児出現率の減少に向けた支援については、次の三つを大切に組み込んでまいります。

一つ目は、「**幼児期からのアプローチ**」です。幼児の段階ですでに全国と差があることから、幼児期から数多くの運動遊びの経験を通して運動の習慣化を図ることが大切です。「**幼児期運動指針**」や「**ふくしまっ子児童期運動指針**」を活用し、取り組んでいきましょう。二つ目は、「**個別指導の充実**」です。小学校段階から肥満の出現率が徐々に増加していることから、これまでの予防的指導を集団だけではなく、個別へとつなげていくことが重要です。「**学校における肥満対応ガイドライン**」をご活用ください。三つ目は、「**中高の連携**」です。高校段階で出現率が再び増加することから、中学校と高等学校の連携が大切です。自分手帳等において確実な引き継ぎをし、継続した指導をお願いします。

運動・食事・生活習慣を総合的に指導し、健康マネジメント能力の育成を一層進めていただきたいと思います。

「確かな学力の向上」

～エビデンスに基づく授業の充実と改善～

今年度も全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査が実施されました。児童生徒の回答状況はいかがだったでしょうか。結果が届くのは9月下旬ですが、年間を通じて各校の学習指導の充実・改善に各種調査(問題)を生かしていただくことを推奨しております。

といいますのも、全国学力・学習状況調査の趣旨は、児童生徒の学力状況を知るのみならず、各校の日頃の学習指導に生かし、授業改善検証サイクルを確立することにあります。より適切な(エビデンスに基づく)現状把握は、働きかけ(学習指導)の効率化にもつながります。

しかしながら、多忙を極める学校において各種調査や結果分析をいつ・どのように生かすのか見通しがもちにくい実態も昨年度の学力向上担当者会議において課題として明らかになりました。

そこで、各種調査の年間活用モデル案の提示と調査を行うことで、「各校のエビデンスに基づく授業充実・改善サイクル確立」の一助になりたいと考えております。今後、適切な時期に「Check(評価)」「Action(改善)」を加え、県南の児童生徒一人残らず、学びに向かう力を育てていきましょう。

「特別支援教育の推進」

昨年12月、文科省により公表された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果から、小中学校において学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合が8.8%、高等学校においては、2.2%存在することが明らかになりました。特に小中学校は、前回の調査より2.3ポイント増加しており、通常の学級における特別支援教育の充実も急務となっています。特に、担当者だけではなく、学校全体で特別支援教育に取り組む校内体制の充実、授業における適切な支援に向けた専門性、切れ目のない支援体制の整備が大きな課題です。

このような現状を踏まえ、特別支援教育の重点として、「多様な学びの場における教育の充実・整備の推進」と「切れ目のない支援の充実」をあげました。授業の充実に向けた各種訪問における指導助言の他、今年度よりスタートした「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」の取組のひとつである、「地域支援体制整備事業」において、担当者の専門性向上および個別の教育支援計画の作成と引継ぎ・活用に向けた相談・研修支援を引き続き行うなど、学びの場を問わず、すべての子ども達の学びの充実を図るべく、取り組んでまいります。

～学校・家庭・地域の教育力の向上を目指して～
 令和5年度社会教育事業の重点より

社会教育課では、「家庭・地域の教育力の向上」「子どもたちの豊かな心を育む体験活動の充実」「生涯学習推進による人づくり」の三つの重点を掲げ、学校、家庭、地域の教育力の向上を目指し、各事業に取り組んでまいります。その中からいくつか紹介いたします。

1 家庭・地域の教育力の向上

家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう「**親子の学びを応援する講座**」を行っております。今年度も2校のPTAにご協力いただき、「情報モラル教育」についての講演会を実施する予定です。また、当事務所では、「**家庭教育支援プログラム**」において、家庭教育の支援も随時行っております。詳細については、HPにも掲載しておりますので、ぜひ、ご活用ください。

さらに、家庭教育に関する研修会の開催や不安や悩みを抱えている家庭に対し、個別かつ継続的な支援を行う「家庭教育支援チーム」の設置も促進し、家庭教育支援の充実を図ってまいります。

2 子どもたちの豊かな心を育む体験活動の充実

学校・家庭・地域が連携して子どもの読書活動を推進し、子どもたちの豊かな心や生きる力の育成を目指し、学校や図書館等で活躍できる読書ボランティアや司書の

先生方等を対象に「読書活動支援者地区別研修」を開催しております。今年度は、「**読み聞かせのコツ**」についての講義・演習と、震災の記憶の風化防止と教訓の継承を図るため、「**震災語り部による講話**」を予定しております。開催日：10月17日(火)新白信ビル

3 生涯学習推進による人づくり

地域における教育力の低下や家庭の孤立化、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化に対して、社会総がかりで対応することが求められています。そのため、学校と地域がパートナーとして連携・協働する組織的・継続的な取組が必要です。さらに、「**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進**」を図ることで学校の教育活動の支援や多様な課題への対応がより効果的に進められます。各地域の実態や特色を生かした取組が一層充実されるよう関係者間の理解促進、連携強化のための研修会を予定しております。

研修会等の詳細につきましては今後配付する案内・ちらしやHP等をご覧ください。

また、LINE「県南社教」において、社会教育課の事業や研修会等の情報も随時配信しております。ぜひとも右記のQRコードから、友達登録をお願いします。



LINE「県南社教」QRコード

小 学 校 紹 介

「GO!GO!善GO!チャレンジする善郷っ子」

矢吹町立善郷小学校

善郷小学校は昭和56年4月2日に矢吹小学校と分かれて開校し、令和5年度で創立43年目を迎えます。「認め合う 学び合う 鍛え合う 感性豊かな善郷っ子」を教育目標に掲げ、児童と教師、家庭、地域が一体となって教育活動を進めています。

419名の児童は「GO!GO!善GO!」の合言葉のもと、様々なことにチャレンジしています。神レベルのあいさつを目指して「笑顔であいさつ」をする児童の明るい声が校舎に響きます。あいさつで心を通わせることが、温かい関係づくりにつながっています。

読書活動では、お話会や移動図書館「よむよむ号」による本の貸し出し、矢吹子ども100選をもとにした読書に取り組んでいます。校長先生による表彰読書達成賞・読破賞だけでなく、図書委員会がベストリーダーの表彰を行うことで、読書への意欲が向上しています。

陸上部や吹奏楽部の活躍により、目標に向かって努力する心や自分の学校に誇りを持つ心が育まれています。



「絆」

泉崎村立泉崎第一小学校

本校は、明治7年に創立され、今年149年を迎える歴史のある学校です。「真・善・美を求めて、気付き、考え、行動できる心身ともに健康な子ども 進んで学ぶ子ども 思いやりのある子ども 体を鍛える子ども」を教育目標に掲げ、日々の教育活動を進めています。

縦割り班による清掃活動や、子どもたちで企画・運営した行事を月1回実施しています。また、「泉っ子ウォークラリー」では、班長が中心となり学区内を子どもたちで探索するといった、班の絆を深め創意工夫する力を高める活動を行っています。これらの行事は、全て6年生が中心となって進めており、下級生からは「次は自分たちが」という目標の存在ともなっています。この憧れや思いは受け継がれ、下級生にも自ら考え行動する力や思いやりの気持ちが育っています。県教育委員会主催の「なわとびコンテスト」

では、より多く跳ぶための工夫や友人を励ます姿が見られました。4学級が入賞する活躍をし、全学級が絆を深め達成感を味わうことができました。



新任の先生方から



「笑顔の学校」

白河市立五箇小学校

校長 鈴木 純子

5月末、五箇小学校最後の鼓笛パレードを実施しました。沿道で保護者の方や地域の方が見守る中、子どもたちは、精一杯演技を披露することができました。休憩中、祖父が寄贈した鼓笛のベレー帽が懐かしくて応援に来たという地域の方のお話を伺いました。地域の学校として大切にされてきた五箇小学校。その歴史や地域の方々の思いを知り、改めて「校長」の責任の重さを実感しました。校長として、子どもたちが自分のよさを発揮し、生き生きと学べる学校をつくり、子どもたちの笑顔で地域の期待に応えられるよう取り組んでまいります。



「変化を起こせ、恐れるな、

夢の途中」

福島県立白河実業高等学校塙校舎

教頭 新関 幸太郎

新任教頭として、「現状維持は最大のリスクだ」のフレーズが好きです。新生白河実業高等学校塙校舎として4月から開校しましたが、「やっていますか？」という電話で問い合わせがたびたびありました。このタイミングをチャンスととらえ、よりいっそう地域との連携、学びの変革、解のない問題に積極的にチャレンジできる生徒を育て、塙町のPRをしていけるように尽くしていきたいです。今年と来年、これまでのすばらしい栄光の日々の財産を活用させていただき、行動していきたいと思っています。常に前進し、新しい扉を開きます。塙校舎プライド！



「子どもたちの笑顔のために」

鮫川村立鮫川小学校

教頭 吉田 淳也

鮫川小学校に赴任して早2ヶ月が経ちました。初めての慣れない教頭職、初めての学校・・・校長先生や同僚の先生方、村教育委員会のみなさん、そして保護者のみなさんに支えられて無我夢中で過ごしてきたそんな毎日でした。最近どうにか仕事にも慣れてきたので、これからは子どもたちの笑顔のためにできることを少しずつ実践していきたいと思います。担任の先生方やそれを支える周りの先生方・支援員のみなさん、保護者のみなさん、地域のみなさんと一緒に手を取り合い、子どもたちの笑顔があふれる学校をつくっていききたいと思います。



「着任時の初心を忘れず」

泉崎村立泉崎中学校

教頭 久保木 学

4月に新任教頭として本校に着任し、3ヶ月が経とうとしています。目の前の業務に追われつつも、明るく元気な生徒たちと共に過ごせることを、日々嬉しく思っています。また、生徒のために職責を懸命に果たそうとする先生方にも恵まれ、私自身も力をいただいています。そうしたなか教頭として、生徒たちに、先生方に、地域の方々に何ができるか試行錯誤しながら取り組んでいます。今後も着任時の初心を失わず、校長先生の指導を仰ぎながら、より本校の学校の力が高まるよう教頭職に邁進したいと思っています。



「子どもたちとともに」

柵倉町立近津小学校

教諭 原 夏音

今年の4月に、新採用として近津小学校に着任しました。3月までの学生生活とは違った「小学校の先生」としての生活に不安もありましたが、子どもたちの笑顔や困ったときに手を差し伸べてくださる先生方に支えられ、充実した日々を送ることができています。子どもたちとの関わり一つひとつを大切に、寄り添うとともに、子どもたちが安心して学ぶことができるよう、サポートしていきたいです。また、日々の新しい発見や自己の実践を振り返り、謙虚な姿勢で学び続けることで、子どもたちとともに成長していきたいです。



「成長と感謝」

矢吹町立矢吹中学校

教諭 斉藤 理駆

4月に初任者として矢吹中学校に着任しました。生徒たちと周囲の先生方に助けていただきながら、毎日充実した日々を過ごしています。毎時間の授業で課題の解決に向けて頑張っている生徒たちを見ると、授業力向上のために私も励まなくてはと感じています。また、周囲の先生方が親身に相談にのってくださるので、いつも授業や生徒指導に思い切って挑戦することができます。矢吹中学校での毎日は私にとって充実した学びに溢れており、教師として成長したいという想いが日々強まっています。周囲への感謝を胸に、これからも頑張ります。